

団体名 **メイクボランティア団体 きらめ輝山口** (山口市)

代表者名	岡部 尚子	団体の目的
構成員数	19人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者、障がい者、子育てママ等に対し、メイクやマッサージによって心理的、社会的な活性化を図る
設立	2017年4月	
問い合わせ先	https://kiramekiyamaguchi.hp.peraichi.com/	

事業名 **施設訪問によるメイクボランティア活動2022**

事業の目的

- 認知症を伴う高齢者や障がい者に対して、メイクセラピーを行い、心の癒しや活性化を図る

事業の内容

- メイクボランティア施設訪問
防府市や山口市、宇部市の高齢者デイサービス施設へ月1回訪問し、入所者へメイクやハンドマッサージを実施／施術人数:延べ34人
- 会員同士の情報交換やメイク技術向上のため、メイクに関する研修・講座を開催
- 「生前に残す楽しい遺影」をコンセプトにメイクを施術して楽しみながら希望者へ遺影撮影を実施する「イエーイ!(遺影)撮影会」を実施

事業の成果

- コロナ禍でもメイクを通して人と人とのふれあいができ、様々な方をいやすことができ、楽しく晴れやかな気持ちになっていただけました
- コロナ禍におけるメイク施術方法を会員で検討しながら進めたことでメイク技術の向上につながった

活動現場レポート

活動報告会・メイクアップ講習会

日時：2月19日（日）13：00～／スタジオセンス別館

- ◆ この日は今年度最後の活動報告の日。2月1日、6日に宇部市、防府市で行ったメイクボランティアの様子を報告されました。
- ◆ 2月1日は宇部市にある、引きこもりの方のデイサービスでの活動。事前に女性1人がお申込みされていましたが、施術を見学された方から飛び入りで1人、ハンドマッサージに3人が参加されたとのこと。
- ◆ 2月6日は午前中山口市大内のグループホームで、午後からは防府市の高齢者施設で活動をされ、午前中は8人、午後から10人にメイクが行われたとのことでした。
また、この日は東京の写真家橋田竜馬さんとコラボしての「イエーイ!撮影会」も行われ、笑顔が出ない認知症の方も、メイクをされ、うっすらと笑みを浮かべられるようになったとのこと。この報告を聞いて、会員からは「メイクの力を改めて感じた」との意見が出ていました。
- ◆ その後、メイクアップ講習会が行われ、「冬の季節は乾燥するのでまず保湿から始めよう」や、「メイクする時も『どの色が好き?』等相手に積極的に話しかけながら好みや考える力を引き出すようにしよう」等、お互いに気づきを報告しながら改善策を話し合われていました。



講習会の様子



入所者の方もメイクを楽しんで

団体名 認定特定非営利活動法人みらいプラネット (防府市)

代表者名	山根 美伸	団体の目的
構成員数	330人	<ul style="list-style-type: none"> 難治性血管奇形の患者に対して、患者や障がい者を支援する事業を行い、病気や障がいの啓発活動に寄与する 患者や障がい者等社会的弱者の差別や偏見をなくすなど人権を擁護する事業を行い、笑顔あふれる共生社会の実現を目指す
設立	2012年11月	
問い合わせ先	https://www.yg-rvm-support.org/	

事業名 次世代教育人権学習啓発事業

事業の目的

○ いわれのない差別や偏見に傷ついたり悩んだりしている子ども達の人権を守り、「笑顔あふれる共生社会の実現」に寄与する

事業の内容

○ 人権学習啓発用の図書として弊法人が製作している「ひとつぼし～咲き誇れ、強く next season～」を防府市、下関市、長門市等県内13の市町に寄贈

事業の成果

- 社会的弱者に対する人権擁護について、小学生でも分かりやすい漫画という手法を用いたため、学校等においても子どもたちや教職員に容易に理解を得られたとのことであった
- 県内全市町に配布しながらの啓発を続けることにより、本県から更に全国にも発信していきたいと考えている

活動の写真



各市町へ図書を寄贈



県内の新聞に紹介記事が掲載されました

団体名 山口の朗読屋さん (山口市)

代表者名	林 伸一	団体の目的
構成員数	10人	<ul style="list-style-type: none"> 児童館や高齢者施設等への訪問公演を通して、青少年や高齢者が明るく文化的な生活ができるよう支援する 朗読を通してコミュニケーションの活性化を促進し、心身ともに健康になることをめざす
設 立	2017年4月	
問い合わせ先	hayashix@yamaguchi-u.ac.jp	

事業名 金子みすゞの詩やウクライナの民話の朗読をとおして平和を考える事業

事業の目的

- ウクライナ戦争下で金子みすゞの詩やウクライナ民話の朗読を通して、平和を考える機会をつくる
- 平和に貢献する詩や歌の力を広く示し、共感する人を増やす

事業の内容 ○ 朗読会の開催

	内 容	開催日	場 所	参加者
①	金子みすゞの詩の朗読会とミニコンサート	4月16日(土)	吉敷地域交流センター	56人
②	ウクライナ民話と日本の昔話、紙芝居の朗読会	6月5日(日)	吉敷地域交流センター	39人
③	金子みすゞ「キネマの街」朗読会とミニコンサート	7月23日(水)	CS赤れんが	70人
④	福田百合子氏と平和を考える朗読会	8月30日(火)	吉敷地域交流センター	21人
⑤	「百合子のふるさと辞典」朗読会とピアノコンサート	2月25日(土)	大殿地域交流センター	49人

事業の成果

- 金子みすゞの詩やウクライナ民話の世界の広がりを実感し、会員のスキルアップに繋がった
- 詩の世界を作者や専門家、音楽家の力を借りて平和を愛する詩や歌の力をより深く感じ、理解することができ、参加者からの満足度も高かった
- 今後も様々な分野の方とコラボしながら朗読の可能性を拡げていきたい

活動現場レポート アーサー・ビナードと平和を考える朗読会 日時：9月3日(土) 13:00～/小郡地域交流センター

- ◆ この日は詩人で絵本や紙芝居の脚本家であるアーサー・ビナードさんと、福田百合子さんをゲストに朗読会が行われました。
- ◆ 初めに、第58回五山賞特別賞(年間に出版された紙芝居の最優秀作品に贈られるもの)を受賞されたアーサー・ビナードさんが受賞作品の「ちっちゃいこえ」の紙芝居を実演されました。この「ちっちゃなこえ」は、埼玉県の丸木美術館に所蔵されている「原爆の図」から何点かの絵を選んで切り取り、オリジナルの脚本としてアーサーさんが一から手掛けたものです。ネコの「クロ」の視点で原子爆弾の恐ろしさ、それを人間が人間に使うという残酷さが淡々と語られており、大人から子供まで平和について考えさせられる作品でした。作家本人から作成の秘話や思いを聞き、参加者はそれぞれ思いを巡らせていたようでした。
- ◆ 福田百合子さんとアーサーさんとの掛け合いも面白く、子どもが読んで大人が読んで面白い「絵本」の世界を色々な角度からより深く楽しむことができました。



朗読会の様子



団体名 いちご会（一期一会）（宇部市）

代表者名	吉田 弘美	団体の目的 <ul style="list-style-type: none"> ふるさと宇部を想い、紳士淑女が集い未来を見据え、子どもたちが住みたくなるような実践づくり、起業家を目指す仲間づくり、元気な街づくりに取り組む
構成員数	35人	
設立	2017年5月	
問い合わせ先	https://ichigokaiweb.localinfo.jp/	

事業名 いちご会ファーム

事業の目的

- 健常者と障害者の相互交流・多世代にわたる交流・農業活動を通して、耕作放棄地において、無農薬・無化学肥料の菊芋栽培を通して、共存同営を実践する

事業の内容

- 菊芋の栽培
宇部市小野、野中と山陽小野田市有帆の三カ所で菊芋栽培に向けた耕作地の選定や開墾を実施
- 菊芋栽培に向けた講習会

開催日	8月9日（火）18:30～	開催場所	宇部市国際ホテル
内容	島根県益田市の岡田屋本店から講師を招へいし、菊芋の栽培方法について講習会を開催		

- 菊芋レシピの開発
宇部市内の高校生とコラボし、菊芋を使ったレシピ開発や菊芋をイメージしたキャラクターデザインを作成
- 菊芋収穫祭
1月12日～14日の3日間、障がい者・地域の方と一緒に菊芋を収穫

事業の成果

- 菊芋栽培による地域活性化という面で地域貢献、社会貢献ができたように思う。また、当初予定にはなかったが、菊芋を通して地元の高中生との交流が進んだことは大きな成果だった。高校生にとっても地域に目が向き、新しいチャレンジとすることができたように思う
- 収穫時には障がい者と地域の方が一緒に作業することで、お互いの理解が進んできた。思いのほか順調に進み、来年度以降もっと色々なことができるのではないかとワクワクしている

活動の写真



菊芋栽培に向けた講習会



和気藹々と収穫作業



収穫した菊芋

団体名 Art of Hosting 山口・福岡実行委員会 (山口市)

代表者名	小柳 明子	団体の目的
構成員数	9人	<ul style="list-style-type: none"> 命や地域での暮らしにかかわる複雑な課題をなんとかしたいと願う人々が、その思いに基づいて共に働きかけることのできるコミュニティへ育つよう支援する
設 立	2022年3月	
問い合わせ先	artofhosting.yamaguchi.fukuoka@gmail.com	

事業名 合宿型トレーニング「Art of Hosting山口・福岡2022in岩国」事業

事業の目的

- 山口県内の暮らしにかかわる実践者・支援者が参加型リーダーシップを学び、実践することで、多様化・複雑化・深刻化する暮らしの課題に対してより効果的に取り組むことを目指す

事業の内容

- 事前にzoomによるオンラインの集会やミーティングによってつながりの場を設定

開催日	①6月2日(木)～5日(日) ②7月12日(火)～14日(木)	開催場所	①・②とも山口県ふれあいパーク
内 容	①スタッフを中心としたチーム合宿 ②デザインミーティング		

- 「Art of Hosting山口・福岡2022in岩国」の開催

開催日	7月15日(金)～18日(月祝)	開催場所	山口県ふれあいパーク	参加者	48人
内 容	3泊4日で宿泊滞在型トレーニングを実施。地域や社会がより良い方向へ変化できるように対話と協働を通じてできることや、その力となるフレームワーク、デザインや考え方等を実践的に学び、参加者同士のゆるやかなネットワークづくりも行った。				

- 合宿終了は近況報告会や振り返り会や実践の場を設定

事業の成果

- 県内から市民活動や地域づくりの支援に携わる人に参画いただいたことで、今後の支援力の向上につながる学びと継続的なネットワークを構築することができた
- 幅広い分野で活動する支援者や大学生の参加もあり、今後の山口県の市民活動や地域づくりの向上につながる成果を得られた
- 今後も2～3年に1度のスパンでこのような形の合宿を開催し、地域課題が解決に向かい、望む地域の未来・暮らしが実現されるための活動を継続していきたい ※2024年9月13日～16日に福岡県赤村で開催予定

活動の写真



合宿でのグループワークの様子

団体名 室積まちぐるみ協議会 (光市)

代表者名	松本 隆	団体の目的
構成員数	約7,000人	<ul style="list-style-type: none"> 室積地区共通の課題解決を図り、安全・安心とぬくもりのある室積の構築を目指し、自主的・主体的に地域活動を行う
設 立	2016年3月	
問い合わせ先	☎0833-78-0267 (室積コミュニティセンター)	

事業名 みたらいアートプロジェクト

事業の目的

- 室積地区の海岸エリアが日本一のエリアとなるよう、現状の無機質な防潮堤を生まれ変わらせ、その魅力を広く情報発信する
- 室積地区の未来を考える人づくりや地域の絆の結びつきを強化する

事業の内容

- 防潮堤のペインティング

開催日	11月6日(日)9:00~	開催場所	光市室積海岸(西の浜)	参加者	80人
内 容	予め業者によって表面塗装した上に、地域キャラクター「むろぞう」やクサフグを描いた				

- 振り返り会~イラストの輪郭を描くときにプロジェクターを使用したことや、塗装業者が子どもたちにペンキ塗りの指導を頼んだこと等、良かったことや次年度に向けての取組を話し合った

事業の成果

- 自分達の地域の誇りや魅力について、改めて考える良い機会となった
- これまで地域活動に携わっていなかった方々の参加があり、地域活動の広がりが見られた
- 来年度以降も学校や行政機関と連携しながら継続して防潮堤ペインティングを実施していきたい

活動現場レポート

みたらいアートプロジェクト
日時：11月6日(日)9:00~/光市室積海岸

- ◆ この日は朝9時から作業が開始され、すでに室積小学校の生徒4人、室積中学校生徒9人が縦1.6メートル、横2.5メートルの絵を防潮堤に描いていました。
- ◆ 絵は室積半島が産卵地として県の天然記念物に指定されている「クサフグの群れ」と、象鼻ヶ岬にちなんで象をキャラクターとし鼻が室積半島になっている「むろぞう」の2種類。
1つの絵を3つのグループに分け、1時間ごとに交代してペンキを塗る作業を行いました。
- ◆ 生徒たちは楽しんで参加しており、地域住民もお散歩がてら、ちよくちよく絵の進み具合を見に来られ、「遠くからでも目につく、彩りがでてすごくいい」と喜んでおられました。
- ◆ 会では来年度以降も防潮堤に絵を増やしていく計画とのこと。防潮堤の近くには、釣りが楽しめる場所や夕日の撮影スポットがあり、人通り、車通りも多いので、室積地区の新たな名所として多くの人が訪れるようになるのではないかと期待されます。



下絵をもとに子ども達で描いていく



参加者で記念写真

団体名 柳井桜土手を守る会 (柳井市)

代表者名	大野 重則	団体の目的
構成員数	20人	<ul style="list-style-type: none"> 柳井桜土手の環境美化活動を行い、観光のまち柳井市の新名所を創出する 地域住民とのふれあいや地域活性化を図るとともに、柳井市のまちづくり、文化振興等に寄与する
設立	2011年6月	
問い合わせ先	山口きらめき財団へ	

事業名 柳井「桜土手」のにぎわい創出事業

事業の目的

- 柳井市の「桜土手」を観光の新名所として掘り起こして、住民のふれあいや交流の場とし、地域活性化やまちづくり、文化振興に寄与する

事業の内容

- 桜土手周辺の草刈りや除草、ゴミ拾い等の環境美化活動を年間計6回開催
- 桜土手において、地域ふれあい交流や観光宣伝等によるまちづくりを実施

	内 容	開催日
①	桜まつり:柳井市内の市民活動団体と連携し、石見神楽、篠笛と三味線演奏、ダンス、吹奏楽等を披露	4月3日(日)
②	婚活イベント:柳井市周辺の独身男女を中心に出会いの場づくりとして桜土手で交流してもらう場を設定	10月16日(日)
③	大歳神社跡地のお披露目会:地元歴史の重要性についての基調講演、柳井市内の市民活動団体と連携して舞踊や獅子舞、ハンドベル等を披露	11月27日(日)

事業の成果

- 柳井市の観光や桜の新名所として地域住民や観光客との交流の場ができた
- 市内の歴史、観光団体とのネットワークができ、市民活動センター登録団体との協力連携が進んだ
- この歴史の地を多くの市民に知ってもらうため、今後も啓発活動を継続していきたい

活動現場レポート

大歳神社跡地のお披露目会

日時：令和4年11月27日(日) 13:00～／柳井市桜土手

- ◆ 大歳神社は、かつて付近一帯の干拓工事の際に人柱となった女性の霊を慰めるために建てられたもので、あまり整備されておらず周囲も鬱蒼となっていました。当会が雑木を切ったり、藪を切り開く等の整備を行われ、ちょっとした広場になっています。神社本体はすでに近隣の神社に合祀されたとのことで現在は「跡地」となっており、それを市民に自由に活用してほしいと3年前から「お披露目会」として楽しいイベントを開催して地域住民に啓発されています。
- ◆ この日は、「柳井日本晴れ街道協議会」の岸田事務局長による「柳井市古開作の変化あれこれについて」と題した基調講演の他、文化団体による神楽、ダンス、獅子舞、フラダンス、ハンドベル等の発表があり、参加者も出演者も一体になって楽しまれていました。
- ◆ 地域住民同士が交流し、地域の歴史やその良さを学ぶ機会にもなっており、市内外の文化団体と住民との交流の場ともなっていたようです。



獅子舞やハンドベルの演奏も



団体名 柳井市白壁の町並みを守る会 (柳井市)

代表者名	木阪 泰之	団体の目的
構成員数	50人	<ul style="list-style-type: none"> 郷土の町並み保存とより良い生活環境づくりにより、柳井市の発展を図る
設立	1979年2月	
問い合わせ先	mt.sugil010@x3.gmobb.jp	

事業名 柳井市白壁の町並み 魅力「再」発見プロジェクト

事業の目的

- 市民自身が白壁の町並みのルーツや成り立ちを「再」発見することで、柳井市独自の歴史・伝統文化を「再」認識し、愛し育てる意識を育て、町並みの活気を再生するとともに、対外的に柳井市の白壁の町並みの魅力をPRする

事業の内容

- 柳井金魚ちょうちん&弘前金魚ねぶた展示

開催日	7月16日～8月31日	開催場所	町並み資料館、やない西藏、しらかべ学友館等
内容	柳井の金魚ちょうちんとそのルーツである弘前金魚ねぶたを展示し、チラシ等を配布しPR		

- 弘前金魚ねぶたづくり体験

開催日	7月23日、8月9日・13日	開催場所	やないろ2Fスペース	参加者	延べ72人
内容	金魚ねぶたの制作体験を実施。制作物は持ち帰ってもらい、各家庭で装飾				

- 柳井市オリジナルかるたの商品化とかるた大会の開催

柳井中学校の地域学習の時間に生徒が製作した原案をもとに、オリジナルかるたを作成。3月19日にはかるた大会を開催

事業の成果

- 観光客や体験者に柳井市と弘前市のつながりや、白壁の町並みの成り立ち、柳井市の魅力を知ってもらいきっかけとなり、子どもたちにとっては、歴史や伝統を継承する心を育てることに繋がった

活動現場レポート 日時：7月23日(土) 13:00～/地域交流拠点「やないろ」2階 弘前金魚ねぶたづくり体験

- ◆ この日は体験会の初回。参加者は小学生を中心に親子連れのグループが多く、中には高校生の姿もありました。
- ◆ 青森県の「津軽藩ねぶた村」とzoomをつないで、ねぶた村の桧山指導員からオンラインで作り方を教わりながら制作がスタート。金魚ねぶたは既に組み立てられたものが用意されており、主な作業は色を塗りひれを付けるというものでした。
- ◆ 小さい子どもたちはすぐに飽きてしまうかと思いきや、金魚ねぶたの基本色である「赤」ではなく、ピンクや黄色の色を塗ったりとオリジナルのねぶたづくりを楽しんでいました。保護者の方も子どもの塗り残しを指摘したり、汚さないように注意したりと和やかに見守られており、親子での体験が夏休みの良い思い出となったようでした。



青森とZoomでつながりながら実施されました

団体名 廃校再生サミット／山口 (美祢市)

代表者名	宮崎 辰美	団体の目的 ・ 廃校活用の情報交換を通じて課題や問題を共有し、解決を図り、活用方法を模索するとともに、自立した地域活動をより強固なものとする
構成員数	11団体+2人	
設立	2016年6月	
問い合わせ先	☎08396-2-0114 (鳳鳴地域交流センター)	

事業名 廃校再生サミット／山口「廃校ベース防長かるた探検隊」

事業の目的

○ 山口県の複数の現場で「故郷体験」をする基地として廃校の再生利用を検討し、交流人口の増加を図る

事業の内容

○ 「廃校ベース防長かるた探検隊」

開催日時	11月21日(日)9:00~16:30	開催場所	阿東町旧亀山小学校	参加者	約10人
内容	・マップに示された26カ所の徳佐地域のスポットを自転車で巡回 ・マップには、徳佐上八幡宮、椿家本陣門、萬国山恵長寺文殊堂等地域の歴史名所のほか、徳佐地域にある特徴的な橋や地元の工場など、地域に密着した箇所も掲載				

当初は旧八代小学校をベースに美祢・長門のコースも計画していたが、コロナ禍により1拠点のみでの実施に変更

事業の成果

- 自転車といったとても身近な手段で回ること、身近にあるお宝の存在を再発見することができた
自転車のスピードを競うのではなく、「お宝さがし」というゲーム感覚で実施することで、より多くの層(子どもから大人まで)に楽しんでもらえることが分かった
- 今後もこのイベントを県下の廃校を利用して行い、それぞれの地元地域の魅力を感じていただきたい
- 今年開催できなかった2拠点を含め、今後色々な場所での実施を計画していく予定

活動の写真



楽しく自転車を漕ぎ巡りながら地元のお宝スポットを探しました



作成したチラシ



団体名 山口ジビエサミット (美祢市)

代表者名	仲村 真哉	団体の目的
構成員数	20人	・ ジビエに関する活動を行うことにより、猪や鹿といった野生鳥獣を活用し、一般への認知を広める
設立	2022年3月	
問い合わせ先	☎090-6434-2055 (仲村)	

事業名 山口ジビエサミット2022

事業の目的

- ジビエ加工施設や飲食店、狩猟者といった関係者同士の相互理解を深め、繋がりをつくる
- ジビエ肉の加工について一般への認知を広めるため、イベントを開催する

事業の内容

- 拠点づくり
美祢市美東町真名滝に設置している、ジビエの保管倉庫の屋根、壁の塗装や草刈り、駐車場の整備等
- ジビエ猟師のスキルアップ研修会

開催日	5月9日(月)、8月16日(火) 10月16日(日)、3月6日(月)	開催場所	美祢市美東町埵ノ鼻848-4 古民家ゲストハウスひまわり
内容	各猟師の事例紹介や持ち寄りのジビエ料理新メニューの試食会等		

- 山口ジビエサミット2022の開催

開催日	①5月8日(日)~9日(月) ②10月15日(土)~16日(日)	開催場所	美祢市美東町埵ノ鼻 848-4	参加者	600人
内容	ジビエを使った料理を提供するキッチンカーや屋台、猟師道具の展示や猟の体験、交流会等				

事業の成果

- 定期的に研修や情報交換会を行ったことで、ジビエ猟師や関係者のスキルアップ、連携強化に繋がった
共同でジビエ商品(ジビエ餃子、シシ肉まん等)の開発も実施できた
- ジビエサミットには、ジビエ猟に取り組みたい方や取材の連絡も多く反響があった。初めてジビエ料理を食べる方もおられ、ジビエに対する認知や啓蒙を効果的に行うことができた
- 今後も関心の薄い層へアピールできるよう、他団体とのコラボ企画やイベントへのキッチンカー出店等で、啓発を続け、山口県産のジビエとしてのブランド強化を目指していきたい

活動現場レポート

日時：10月15日(土) / 旧きららオーガニック跡地 (美祢市美東町)
山口ジビエサミット2022~秋~

- ◆ 当日は、ジビエを使った料理を提供するキッチンカーの出店、猟師道具の展示、しし汁の無料試食(100人限定)、マナガタbaseによる射的などの催しが行われていました。
- ◆ 山口農業高校の3年生による、ジビエ肉を使用した商品開発についても紹介されており、イノシシ肉を角煮のように加工し、蒸しパンにはさんだ“ししまん”の試食も行われていました。試食した来場者からは「見た目がかわいく、SNS映えておいしい」との声があり、好評のようでした。
- ◆ イベントには中学生・高校生・大学生(山口東京理科大学の狩猟部)が参加しておられ、若い世代を巻き込みながら、活動を続けられている様子が伺えました。



試食の他、会場には猟銃や仕掛け檻の展示も

団体名 「鹿野の風」プロジェクト (周南市)

代表者名	福田 清治	団体の目的 ・ 人口減少や高齢化による地域の衰退にブレーキを掛け、地域全体の新たな価値を生み出す活動を通じて、次の世代に希望を繋ぎ、豊かなまちをつくる
構成員数	12人	
設立	2011年5月	
問い合わせ先	☎080-6311-4079 (事務局)	

事業名 里山に多様な人々が集う全く新しいコミュニティ作りへの挑戦

事業の目的

- 荒れた雑種地、山林を活用し、多様な人々が自由に集まってワクワクしながら、花や自然の中で遊べるような全く新しい参加型のガーデンをつくる
- 古い蔵のリノベーションや荒れた林を「夢の森」に整備することで、新しいコミュニティの場所をつくり、衰退する里山に希望の風を吹き込む

事業の内容

- 毎月1回、第1月曜日に、約700坪の雑種地を「夢のガーデン」に、古い蔵をリノベーションして新たな交流の場として活用する活動を実施
- 夢のガーデンについては、ガーデンのメインとなる道づくりや、ガーデンの立体感を出すための小山、花の植栽を実施。蔵リノベーションは、まず古くてたくさん収納されていた物を運び出すことから始め、床材の腐食の修理、蔵の壁の漆喰塗を少しずつ行っている

事業の成果

- 予想外に時間がかかっているが、興味のある方が多方面から集まり、一つの目標に向けて新しい仲間を取り掛かっていくことにうれしさと希望を感じている。そして、労力の先には素敵な空間が想像でき、時間の経過とともに形づくられていくことに大きな期待を持っている
- 形が見えてくるまでには時間がかかるが、「新たなコミュニティの場」を目指し今後も実施していきたい

活動の写真



手作りの看板を掲げて



蔵の床材に防腐剤を塗布



檜の大木を伐採

団体名 殖生てる (山陽小野田市)

代表者名	久保田 宏司	団体の目的 <ul style="list-style-type: none"> 産業の活性化を通して、地域創生・にぎわいの再生を目指し、自分達の手で殖生・津布田地域を安全で快適な魅力あるまちづくりを推進する
構成員数	16人	
設立	2019年12月	
問い合わせ先	http://habu-teru.com/	

事業名 地域産品による産業振興に資する活動及びその広報活動の展開

事業の目的

- 産業を活性化することにより、地域の賑わいを再生し、交流人口の増加を目指す
- 新たな商品開発や流通システムなどの導入を模索し、新たな産業の創出や地域の可能性を見出す施策を展開する

事業の内容

- マルシェの開催
 地域に縁のある商品などを販売するマルシェを開催。活動に賛同いただいた地元企業（西海食品）や山口銀行殖生支店にも協力いただき、定期的に構内で開催することができた。SNSやFMラジオで告知し、地元だけでなく多くの方に参加いただいた。
 ・浜てんマルシェ・・・年間で計7回開催（4・5・6・7・10・11・3月）
 ・やまぎんマルシェ・・・年間で計16回開催（4・5・6・7・9・10・11・12・1・2月）
 ・他団体と共催で「はぶフェス2022」（5月）「はぶフェス2023」（3月）を実施
- その他、地域行事や日本航空が東京で開催する地域特産品を紹介するイベントに参加

事業の成果

- マルシェの定期開催で当会の認知度が向上し、地域の皆さんから期待や応援の声をいただけるようになった。地域の活性化や創生への機運の高まりを感じている
- 試作的ではあるが、加工品の開発や展開も行うことができた。将来に向け6次産業化や農商工連携への足掛かりとすることができる
- 今後も地元企業をはじめ、地域全体を巻き込みながら地域ブランド化に向けた取組を進めていきたい

活動の写真



マルシェの様子



商品化したお菓子

団体名 花の咲く夕日の里づくりの会 (周防大島町)

代表者名	木村 庄吉	団体の目的 ・ 耕作放棄地及び一般家庭の私有地に花木を植えて、外入(とのにゅう)地区全域を花の咲く里にし、併せて外入湾の絶景と美しい夕日の景観環境を整備し、恵まれた自然を活かした里にする
構成員数	27人	
設立	2014年4月	
問い合わせ先	☎090-4443-2951 (事務局 木村)	

事業名 とのにゅう「希望の丘」花木植栽事業及び里山再生

事業の目的

- 過疎化する地域の耕作放棄地を再生し、花や木を植樹する
- 恵まれた自然環境を活かして景観や山々を再生する
- 歴史を掘り起こして次世代に継承し、町内外の多くの方にこの地域を知ってもらう

事業の内容

- とのにゅう「希望の丘」の遊歩道、作業道を整備し、景観を臨めるよう展望台等を設置。また、花桃等の花木を40本植栽
- アサギマダラが多く飛来できるよう、フジバカマの植栽や食草植栽場所を整備(飛来中には観光客延べ3000人以上が来訪)
- 城山山頂の雑木の伐採や山頂の史跡の調査、往還道の整備、案内看板の設置等を実施
※当初予定していた「城山ハイキング大会」はコロナ禍により中止

事業の成果

- これまで失われかけていた自然を取り戻し、整備することで、多くの方が訪れる場所、地域の憩いの場所になりつつある
- アサギマダラ園の整備が整い、町内外から多くの方が訪れるようになって、地域活性化及び地域の知名度上昇に繋がった
- 現在、高齢化した会員で事業の維持・継続が危惧されるが、事業を整理、省力化を行い、維持、推進していきたい

活動の写真



整備作業の様子

震災に学ぶ集いも開催

団体名 木暮実千代の会 (下関市)

代表者名	榎 教夷	団体の目的
構成員数	175人	<ul style="list-style-type: none"> 下関市出身で戦前戦後を通じ日本映画界を代表する女優の木暮実千代の業績を顕彰する 下関地域に係わりの深い文化的先陣の業績顕彰にも協力し、芸術文化の香り高い街づくりに寄与する
設立	2012年6月	
問い合わせ先	☎080-6314-1383 (事務局)	

事業名 木暮実千代の会が贈る市民劇第三弾「女優誕生」公演事業

事業の目的

- 下関市民の方々に主体的な文化創造の喜びを伝える

事業の内容

- 木暮実千代の会設立10周年記念 創作劇「女優誕生」の公演会及びトークショーを開催

開催日時	11月20日(土) 14:00~15:30	開催場所	下関市民館中ホール	参加者	200人
内容	市民劇の出演者は公募し、申込のあった方に舞台に立っていただいた(うち一人は大学生) 6月から稽古を始め、31回の稽古を経て本番。当日は、木暮実千代の孫である和田武士氏や作家の藤沢摩彌子氏を交えた、木暮実千代誕生秘話のトークショーも行った				

事業の成果

- コロナ禍もあり観客は少な目だったが、舞台への評価は低くなく、演劇参加の公募に応募した方もおられたことから、今後も市民劇として続けていくことへの見通しがたつた
- 公演終了後には、市内の演劇関係者との交流の場も持てた。市民劇が市民権を持ちつつあると考える
- 木暮実千代顕彰館の活動を軸に、当会と彦島地区の住民とのつながりが大きくなりつつある
彦島地区の市民劇、木暮実千代の顕彰の流れを今後も意識して活動していきたい

活動現場レポート

日時：11月20日(土) 14:00~/下関市民館中ホール
木暮実千代の会設立10周年記念 創作劇「女優誕生」&トークショー

- ◆ この日は会設立10周年ということもあり、トークショーも交えながら、木暮実千代の功績を広く伝える市民参加の創作劇「女優誕生」が上演されました。
- ◆ 創作劇「女優誕生」は、木暮実千代が松竹からスカウトされるきっかけを中心に描かれており、日本の大学生映画女優第一号として生き生きと活躍する木暮実千代の姿がとても印象的に描かれていました。
- ◆ キャストや裏方は全て、会員や一般市民からの希望を募り手作りで行われています。人数が足りず一人二役の場面もありましたが会場の雰囲気もとても温かく、参加者も出演者も一体となった和気藹々とした雰囲気でした。
- ◆ 木暮実千代は女優としての顔だけでなく、親のいない子どもたちへの支援、中国残留孤児の肉親捜し等、社会貢献活動にも熱心に取り組まれていたそうです。トークショーではそのような部分にも触れながら、様々な分野で存在感を示した木暮実千代の生涯が語られていました。



会場からは温かい拍手が贈られました